

# The Japanese Society for Time Studies

## 日本時間学会ニュース H27年第2号(平成27年5月)

発行人 日本時間学会 会長 辻 正二  
〒753-8511 山口市吉田1677-1  
日本時間学会事務局 TEL&FAX 083-933-5848  
(山口大学時間学研究所内)

ご 挨 拶

[mail@timestudies.net](mailto:mail@timestudies.net)  
<http://timestudies.net/>



本年6月6～7日開催の日本時間学会第7回大会は、恒例によって山口大学吉田キャンパスで開催する運びとなりました。大会実行委員長として、皆様を歓迎申し上げます。

ご存知のように、時間学研究所は2000年に当時の廣中平祐学長の提唱で設立された研究所です。爾来15年を経っていますが、現在でも国内のみならず国際的にも唯一の時間学を主テーマとした文理融合の学際的な研究所として活動しています。現在は5つの分野、宇宙物理、時間哲学、歴史学、時間生物学、時間心理学、にそれぞれの専任所員が配置され活発に研究が行われています。まだ少数世帯ですが、専任所員は、学術振興会の科学研究費「最先端・次世代研究開発支援プログラム」や「若手研究S」、「基盤研究A」などの大型予算を含め、この5年間に20件以上の外部研究資金を獲得してきており、それぞれの分野で大きな成果を上げています。歴史をたどると明治維新という近代革命は山口からスタートしたといえます。いま時間学という新分野が同様に山口から花開き、発展しつつあります。「その中心となるのが時間学研究所だ」との気概で、所員一同教育研究に励んでいます。今後の皆様のご支援とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

なお恒例の時間学研究所のシンポジウムも併せてここで簡単にご紹介させていただきます。今回は、「宇宙と人間と時間」と題して、藤澤教授が企画・運営しております。講師の方々は大東大学教授の田村元秀先生、京都大学教授の嶺重慎先生、東京大学助教の諸隈智貴先生です。宇宙の生誕から現在までの宇宙の歴史に浸って頂けると幸いに存じます。

山口県は高杉晋作をはじめとしてNHKの大河ドラマの主人公を幾度も輩出してきました。ご存知のように本年も再び「花燃ゆ」は山口、特に萩、防府が舞台です。昨年はお隣、福岡の「黒田官兵衛」で男性でしたが、今年の「花燃ゆ」は女性、吉田松陰の妹の杉文(すぎ・ふみ(あや))が主人公です。隔年の山口開催ですので毎年ご参加の皆さんは既に山口は十分知り尽くしたとおっしゃられるかもしれませんが、この機会にあらためてこの大河ドラマで話題となった場所を訪問されて再認識していただければ幸いに存じます。

甲斐 昌一

(日本時間学会第7回大会実行委員長)

… 目 次 …

|                      |         |
|----------------------|---------|
| I. 第7回大会案内 実行委員長挨拶   | P 1     |
| i. 参加・発表申込みについて      | P 2     |
| ii. 歓迎の言葉            | P 3     |
| iii. シンポジウムの概要       | P 4     |
| 大会スケジュール・自由報告タイムテーブル | P 5～P 6 |
| iv. 宿泊と交通案内          | P 7     |
| II. 事務局からのお願い        | P 7     |

## I . 第 7 回 大 会 案 内

日本時間学会第7回大会は、下記の通り開催されます。

日時：2015年（平成27年）6月7日（土）・8日（日）

場所：山口大学（山口市吉田1677-1）

スケジュール

|        |       |                        |
|--------|-------|------------------------|
| 6/7（土） | 10:00 | 開会式 自由報告 【セッションⅠ】      |
|        | 12:30 | 理事会                    |
|        | 14:00 | 時間学公開学術シンポジウム          |
|        | 18:30 | 情報交流会                  |
| 6/8（日） | 10:30 | 総会                     |
|        | 12:40 | 自由報告 【セッションⅡ】 【セッションⅢ】 |
|        | 16:30 | 閉会                     |

### i . 参加申込みについて

まもなくお送りする参加申込ハガキに参加の可否をお知らせください。総会は学会運営に関する皆さまのご意見を頂戴する大切な会ですので、積極的なご参加をお願いいたします。やむなく総会に不参加の場合は、必ず委任状欄へご記入・ご捺印ください。

シンポジウム終了後の交流会（参加費 3,000 円）の参加の可否についてもご記入いただきますようお願いいたします。

**\*大会参加申込みハガキおよび、委任状の締め切りは、  
5月25日（月）必着です。**

## ii . 歓 迎 の 言 葉

### 第7回大会開催にあたって



昨年度は、私の所属する保健医療経営大学で第6回大会を開催することができ、また、九州の地までお越し頂きまして有り難うございました。お陰様で田園地帯の「みやま市」に時間学に関する知を灯すことが出来たと考えています。

さて、時間に関する総合的な研究を目指して、日本時間学会を旗揚げしてから、早いもので、第7回目の大会を迎えました。会員も徐々にではありますが、増加の方向で推移してきました。学会の中には、数万人規模のものから、小さな数十名の学会までありますが、本学会は小規模な学会に該当すると思います。

私個人は社会学の領域に本拠を置いていますので、社会学会に所属することがそのまま職業の確保につながり、それにより大学でポストを得て、いまでも仕事をしています。つまり、通常科学化した学問領域は、大学の学部や学科にコースがあり、その上に研究科があり、学位取得の体制を持っています。こうした安定的な勢力となった学問では、多くは職業としての学問の道が開けているのです。ところが、本学会に関する時間学については、現状では、大学の学科、大学院教育、就業の場の確保につながっていません。このあたりが時間学の研究の前に横たわっている「壁」だと思います。

しかし、現実の社会はどうなっているかという点、例えば、「目標を設定して効率よく達成することが第一に要請され、計画づくりが義務づけられること」、「祝日のような聖なる時間がどのような意味を持っているのかが忘れられていること」、「時間の圧縮によって人間の体内時計が狂い、事故や病が増加していること」、「政治をする出発点に時間政策の知識が不可欠だが、政治家のほとんどがそれを忘れていないこと」などの時間に関する問題が多く見られます。これらは、時間という視点から一括りで物事を考える（つまり、時間学のような）学問が無いために生じている現象だと思います。私には、時間学という学問は、私たちの生活している個人の世界から家族、会社や組織、地域社会、国家、さらには宇宙に至る、全ての生命・事物の律動と調和を科学する学問ではないかと思っています。その意味では、時間学会の果たすべき役割は遠大で、非常に大きな役割を秘めていると思います。まずは、時間学への関心を喚起し、時間を研究することの面白さや重要性、文理融合の必要性等を地道に説いていく必要があるように思います。

遠大な希望の元に、今年もこの学会という集いで、われわれの知の発信をしていきましょう。再会を、楽しみにしています。

日本時間学会会長

辻 正二

### iii. シンポジウムの概要

時間学公開学術シンポジウム2015

## 宇宙と人間と時間

主催：山口大学時間学研究所

共催：日本時間学会

我々はどこから来たのか、そしてどこへ行くのか——この問いに一つの答えを与えてくれるのが天文学です。現代の天文学が明らかにした宇宙像では、100億年を超える時間の中で星と星間物質が壮大な循環をなしており、私たちはその一瞬に位置する存在とされています。また物質循環の行きつく先であるブラックホールでは、日常の感覚を超えた時間と空間の姿が現れます。宇宙と人間と時間の関わり合いをテーマにして、第一線で活躍する研究者が研究の最前線を紹介します。

日時：平成27年6月6日（土）14：00～17：00（開場13：00）

場所：山口大学 大学会館（山口県山口市吉田1677-1）

○イントロダクション：14：00－14：15

- ・ 『宇宙の中の物質の循環』藤澤 健太（山口大学時間学研究所・教授）

○講演：14：15－15：00

『宇宙における生命と系外惑星の新世界』

田村 元秀（東京大学・教授、国立天文台・太陽系外惑星探査プロジェクト室・室長）

○講演：15：00－15：45

『ブラックホール宇宙における時間の流れ』

嶺重 慎（京都大学・教授）

（休憩10分）

○講演：15：55－16：40

『星の最期の大爆発の瞬間』

諸隈 智貴（東京大学天文学教育研究センター・助教）

○質問時間 16：40－17：00

※本シンポジウムは学会員以外の一般の方も参加可能ですので、お誘い合わせの上お越しください。

## 第7回大会スケジュール

会場：山口大学 平成27年6月6日(土)～7日(日)

(一般演題の順番は変更することがありますのでご注意ください)

### 第1日目 6月6日(土) 2F大会議室

10:00～ 開会

挨拶 第7回大会実行委員長 甲斐昌一  
スケジュール説明

10:20～12:20 一般演題 セッションI

12:20～

休憩・昼食



昼食は各自ご準備ください。

12:30～

理事会 会場：2F小会議室

13:00～

開場

14:00～

山口大学時間学研究所主催

時間学公開学術シンポジウム：大学会館

18:30～20:00

情報交換会

学生食堂「マドンナ」 参加費 3,000円(当日徴収)



### 第2日目 6月7日(日) 2F大会議室

10:00～11:30

日本時間学会第7回大会 総会 2F 大会議室

11:30～12:30

休憩・昼食



昼食は各自ご準備ください。

13:00～14:20

一般演題 セッションII

14:20～14:40

コーヒーブレイク



14:40～16:00

一般演題 セッションIII

16:00 閉会挨拶



山大マスコットキャラクター ヤマミィ

平成27年度 一般演題 タイムテーブル

| セッション I                          | 6/6(土) | 発表者                           | 所属                                      | タイトル   |
|----------------------------------|--------|-------------------------------|---|--|
| 座長：<br>青山拓央<br><br>座長：<br>細井浩志   | 1      | 入不二基義                         | 青山学院大学教育人間科学部                           | 四重の現在 (The Quadruple Present)  |
|                                  | 2      | 椿井 真也                         | 立命館大学大学院先端総合学術研究科博士課程・日本学術振興会特別研究員(DG2) | 時間概念の消去と様相実在論  |
|                                  | 3      | 森野 正弘                         | 山口大学人文学部                                | 平安期の物語における歴史的時間の相対化  |
|                                  | 4      | 森下 徹                          | 山口大学教育学部                                | 日本近世における都市の暮らしと時間  |
|                                  | 5      | Ben Grafström                 | 秋田大学教育推進総合センター                          | Birds of a Feather: Ornithology, Rice Cultivation, and the Passing of Time in the Kōwakamai Fushimi Tokiwa |
| セッション II                         | 6/7(日) |                               |   |  |
| 座長：<br>植村恒一郎<br><br>座長：<br>橋元淳一郎 | 1      | ○野村直樹<br>橋元淳一郎<br>明石真         | 名古屋市立大学人間文化研究科<br>相愛大学<br>山口大学時間学研究所    | E系列の時間の諸相  |
|                                  | 2      | 椿 光之助                         | 山口大学大学院東アジア研究科                          | Ramseyの至福を応用した地球規模の気候変動対策の一考察  |
|                                  | 3      | ○長 篤志<br>長峯裕子<br>甲斐昌一<br>三池秀敏 | 山口大学大学院理工学研究科(工学)<br>宇部工業専門学校<br>山口大学   | マツノババッド鏡視が見える時と消える時—動的視覚ノイズによる影響の違い—   |
|                                  | 4      | 藤澤 健太                         | 山口大学時間学研究所                              | 複数CW信号を用いた太陽系内高精度時刻伝送  |
| 休憩(20分間)                         |        |                               |   |  |
| セッション III                        | 6/7(日) |                               |   |  |
| 座長：<br>井上慎一<br><br>座長：<br>藤澤健太   | 1      | 林 美都子                         | 北海道教育大学函館校                              | 感情語に関する連想量が時間評価に与える影響  |
|                                  | 2      | ○一川誠 陣崎りか                     | 千葉大学文学部                                 | 楽曲の諸要因と注意がランポトと感じられる時間の長さに及ぼす影響  |
|                                  | 3      | 田中薫、澤井浩子、<br>○小山恵美            | 京都工芸繊維大学                                | 作業中小休止時間の過ごし方が精神生理状態に及ぼす影響—スマートフォンまたは口頭による会話の比較—   |
|                                  | 4      | 平野 均 松田昌子<br>西川寛子             | 山口大学研究推進戦略部<br>山口大学大学院医学研究科             | 2型糖尿病患者に対する光治療法の効果 ～6年以上に亘る臨床経過から～   |
| ◎ ポスター発表                         |        | 千葉 喜彦                         | 元・日本時間生物学会長                             | 絵画展示 「365日：朝の血圧」、油彩 91x117cm 他   |

## iv. 宿泊と交通案内

山口大学吉田キャンパスまでのアクセスについては、下記URLをご参照ください。

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/annai/access/yamaguchi.html>

山口市の湯田温泉街に旅館・ビジネスホテルが多数あります。

以下のURLを参考に各自で、ご予約頂けるようお願い申し上げます。

湯田温泉エリアが最も大学の近くになります。

<http://www.yamaguchi-con.jp/yadoonsen.html>

また、新山口駅周辺にもホテルがあります。

新山口からは、湯田温泉駅まで山口線若しくは路線バスでの移動となります。

## II. 事務局からのお願い

- 学会ニュースH26年2号をお届けします。今回は第7回大会の案内号です。
- 平成26年度の学会費が未納の方におかれましては、別送します今年度分の会費請求と併せて何とぞ納入くださいますようお願い申し上げます。  
一般会員 3,000円 学生・院生会員 1,500円
- 住所・電話番号・所属機関などの異動等がございましたら、事務局まで御一報下さい。  
(事務局：右田・平田)
- 学会開催期間中の緊急連絡先 平田 ☎ 080-3884-0216 (Softbank)

【編集後記】 暦は穀雨第十八候牡丹華（ぼたんはなさく）。今春は週末に雨が降り続き、お花見が出来ず寂しい思いをしたのだが、思いがけず、英国で満開の桜の花に出会った。英国に桜のイメージは無かったが、十日間の滞在中は行く場所云々で桜を愛でた。英国到着後、まず鉄道でロンドンから北へ二時間半のリーズに住むジェームス・ヘロン先生のご自宅を訪ねた。先生とは三年前に時間学国際シンポジウムの講師としてお招きして以来、お子様の誕生日プレゼントを贈るなど交流が続いている。子ども達と桜の綺麗な公園で遊び、イギリスの家庭料理をご馳走になり、私のプレゼンの英語の発音もご指南頂くなど楽しい夜となった。その後ロンドンへ戻り、森下教授と合流後、ケンブリッジ大学で開催された研究会に参加し、ブリギッテ・シテীগ先生、アンゲリカ・コッホさんに再会した。滞在したウォルソンカレッジのゲストハウスでも庭の桜が美しかった。シテীগ先生の呼びかけに世界中からコアな研究者が集まっていた、「江戸時代以前の日本人の時間意識がどのように形成されたか」をテーマに日本の文学や文献から読み解き、深くアプローチする内容となっていた。三日間熱い議論が繰り広げられたが、私にとっては、国際時間学会のシュタイネック・ラジ会長との出会いが今回の一番の収穫だった。会長は日本時間学会にも大変興味を持たれており、研究者のネットワークを構築し、研究連携を進めようと提案された。来年のエジンバラでの国際学会には是非日本からも参加して欲しいとのメッセージを胸に帰国の途にいたが、ヒースロー空港へ向かう車窓からの桜の花吹雪が美しく、故郷日本を思い出した。(スーザン・H)